

保健学習プリント（第1学年）

学習期間 5月11日～15日

次の問題を、学習支援計画に示している Google フォームに回答してください。

1 学年保健 出題範囲：教科書 P.6 『1. 私たちの健康のすがた』～P.13 『4. 健康に関する環境づくり』

A 次の文章が正しい場合は（ ）に○を、間違っている場合には×を入れなさい。

- ① 健康問題には、世界規模で流行する感染症や薬物問題などのように、一国の努力だけでは解決しないものがある。
（ ）
- ② 日本の平均寿命ののびは、乳児死亡率の大幅な改善による。
（ ）
- ③ 生活習慣と関連の深い病気を生活習慣病といい、それによって通院・入院する人は減っている。
（ ）
- ④ 新たな健康問題として、精神的ストレスを強く感じるなど、心の健康問題をもつ人々が増えてきた。
（ ）
- ⑤ 私たちの健康を成立させる要因は、本人にかかわる主体要因と、それを取り巻く環境要因の両方がかかっている。
（ ）
- ⑥ 環境要因として、年齢、性別、遺伝、免疫などの人間の生物としての側面があげられる。
（ ）
- ⑦ 病院や保健所などの保健・医療サービスは、環境要因と考えられる。
（ ）
- ⑧ 健康にとって好ましい意思決定・行動選択をするためには、正しいかどうか判断できるような複数の情報が必要です。
（ ）
- ⑨ 受動喫煙を推進する法律を作ることにより、喫煙者の健康が守られ、国民の健康水準が向上した。
（ ）
- ⑩ アメリカの研究によると、地域の活動とのかかわりが多く、友人や家族との付き合いが多いなど、社会的なつながりが密な人ほど死亡率が高い。
（ ）

B 次の文章の（ ）内に語句を入れて文章を完成させなさい。

- ⑪ 日本の平均寿命は、高齢者の（ ）の改善によって、世界最高水準となった。
- ⑫ 乳児の健康は、妊娠中の母体の健康状態や出生後の乳児を取り巻く（ ）などの影響を強く受けます。
- ⑬ 1946年、世界保健機関（ ）憲章によって健康の定義づけがなされた。
- ⑭ 『健康とは、身体的、（ ）、社会的に完全に良好な状態であり、たんに病気あるいは虚弱でないことではない』
- ⑮ 意志決定は何をするか決めること、（ ）は意志決定にそって具体的な行動を選ぶこと。
- ⑯ 知識や（ ）は意志決定・行動選択を左右する要因といえる。
- ⑰ たばこをまったく吸ったことがない人よりも吸っている人のほうが、自分を（ ）に思う気持ちが弱い傾向がある。
- ⑱ その国や自治体が健康に対してどのような政策を立案し、制度や（ ）をつくっていくかということは、国民や住民の健康に大きく影響する。
- ⑲ ヘルスプロモーションとは、1986年にWHO（ ）が示した健康づくりの考え方です。
- ⑳ 健康は、行政や医療機関から与えられるものではなく、住民1人ひとりが自分の価値観にそってそれぞれ（ ）していくものです。

1年生保健 TOPIC READING

次の文章を読んで自分の考えを述べなさい。

令和2年5月5日(火)朝日新聞 別冊 (杉浦奈実・鈴木智之)

ウイルス 身の回りに

感染力「プラ表面2～3日」報告も

プラスチックや金属、紙など、私たちの身の回りにあるものの表面に、新型コロナウイルスがくっついた場合、しばらく間は感染する可能性があることが、研究者から報告されている。誰がさわったかわからないものにふれた場合は、手洗いが大切になる。

米国立アレルギー感染症研究所の研究者らが3月17日、米医学誌ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスンに出した論文で、新型コロナウイルスの感染力が続く「寿命」を報告した。

最も長かったのはプラスチックの上で、実験では3日間、感染力が続いていた。銅の上では4時間、ボール紙の上では24時間で、感染力があるウイルスは見つからなくなった。

どの環境でも、ウイルスは時間がたつ程大幅に減った。プラスチック上で、ウイルスの量が半分になる時間は6,8時間程度だという。

患者のせきやくしゃみ、会話などによって飛び、密閉された空間で、空気中を漂う微粒子「エアロゾル(エーロゾル)」にウイルスが含まれる可能性がある。こうした微粒子では3時間感染力が続くことも確かめられた。

ただし、この論文は、温度21～23度ほど、エアロゾルは湿度65%、身近なものの表面は湿度40%という条件で、ウイルスの実験をしている。これらは、ウイルスの感染力が比較的長続きしやすい条件のため、実際の環境とは異なる可能性もある。

感染制御に詳しい大阪府立大学の山崎伸二教授(獣医国際防疫学)は、ウイルスについて、ぬれていない場所でも数時間から数日間感染力が続くことが報告されていると指摘する。そのうえで「唾液や排泄物などの液体が残った状態の方が長期間感染力が維持されると考えられる」としている。

季節が変われば、流行は収まるのだろうか。コロナウイルスの中には、いわゆる「風邪」をひきおこすタイプのウイルスがある。このウイルスは通常、冬に流行のピークを迎えるが、新型コロナウイルスの感染者は常夏のシンガポールなどでも増えている。

世界保健機関(WHO)は3月にあった会見で、気候によってウイルスの活動がどう変化するのはわかっていないとして「インフルエンザのように夏になれば消える、と考えるのは間違いだ」と警告していた。